

科 目 名	工業心理学(Engineering Psychology)			担当者名	梅室 博行		
推奨学期	4 学期			単位数	2-0-0		
曜日・時間	月曜日 1, 2 限			教室	西 9 号館 311 号室(経営工学演習室)		
担当者連絡先：西 9 号館 420 号室 メールアドレス umemuro.h.aa@m.titech.ac.jp							
オフィスアワー：月曜日		時間		10:45～13:10			
講義の目標							
技術と人間のインタラクションを考えるためには人間の基礎的な性質を知ることが必要である。本科目では心理学的な基礎知識、特に生産の現場やインターフェースの設計において重要な知覚・認知・運動について、現実の場面と関連づけながら学ぶ。							
学科目標への貢献	社会的責任の自覚	10%	構造化・モデル化	10%			
(合計 100%)	分析・評価・解	30%	現実への適用・実装	40%			
	対外的発信	0%	継続的サイクル	10%			
講義の概要							
・ガイダンス、イントロダクションに続き、メインの Part 1 (第 3 回～第 11 回) では情報処理アプローチ(認知主義)について学ぶ。人間の認知を情報処理装置としてモデル化することのこのアプローチには現在では多くの批判があるが、工学的に人間をモデル化するには依然として広く用いられている。よってこの分野の古典として基礎知識を学ぶ。							
・Part 2 (第 12 回～第 15 回)では、ポスト認知主義として認知主義への批判と、それ以降のアプローチ、特にエコロジカルアプローチや感情についての新しい動向について学ぶ。さらに心理学実験の基礎的な知識を習得するとともに、実際の実験に参加し体験する。							
講義の形式							
講義ではあるが、活発な討論を期待する。また実際の心理学研究の実験に参加する。中間テストを 2 回、期末テストを 1 回行う。							
テキスト・参考書							
テキスト：Wickens, C. D., & Hollands, J. G. (2000). Engineering Psychology and Human Performance (3rd ed.). Prentice Hall.							
参考書: Gibson, J. J. (1950). The Perception of the Visual World. Riverside Press.							
Norman, D. A. (2004). Emotional Design. Basic Books.							
必要に応じて資料を配布。							
推奨科目 「インダストリアル・エンジニアリング」を受講していることが望ましい。また本科目履修後引き続き「人間工学」の受講が望ましい。							
成績の評価方法							
中間試験(25 点×2)、期末試験(30 点)、授業への参加(討論・実験参加 20 点)							
履修上の注意							
この授業は講義の形を取っているが、教員・受講生全員の討論の中から理解を深めることを目的としている。よって授業中の積極的な発言を求める。							

講義計画			
回	講義内容	テキスト・参考書	課題
第1回 10/7	ガイダンス		
第2回 10/21	イントロダクション ～心理学が「科学」になるまで～		
第3回 10/28	(Part 1: 情報処理アプローチ) 認知プロセス: overview	テキスト 1 章	
第4回 11/6	知覚 1: 信号検出理論	テキスト 2 章	
第5回 11/11	知覚 2: ビジランスタスク 中間試験	テキスト 2 章	中間試験 1 (イントロダクション～知覚)
第6回 11/18	注意 1: 注意の種類	テキスト 3 章	
第7回 11/25	注意 2: 視覚サンプリング	テキスト 3 章	
第8回 12/2	記憶 1: 作業記憶と長期記憶	テキスト 7 章	
第9回 12/9	記憶 2: 作業記憶の限界	テキスト 7 章	
第10回 12/16	意思決定	テキスト 8 章	
第11回 12/23	中間試験		中間試験 2 (注意～意思決定)
第12回 1/6	行動選択	テキスト 9 章	
第13回 1/16	(Part 2: 心理学実験とポスト認知主義) 心理学実験		
第14回 1/20	心理学実験演習		
第15回 1/27	認知主義への批判とポスト認知主義・新しい研究の動向	参考書	